

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90224	琉球音楽論研究	4単位 通年	1・2	講義	遠藤 美奈

■テーマ 琉球古典音楽の理論と研究方法

■授業の概要

前期は、琉球古典音楽の構造理論について、楽譜分析と音響分析の両面から明らかにする。楽譜（工工四）について、書誌的、歴史的、音楽論的な問題を検討することによって、古い伝承を正しく理解し、あるいは現代の演奏を批判的に考察する。後期は、その応用としてこれまでの琉球古典音楽の研究手法を援用して実際に分析等を行い、自らの演奏理論や研究の基礎を身につける。

■到達目標

- ・古典音楽の構造理論と作曲方法を理解すること。
- ・多様な研究手法から適切なアプローチができる方法を選び、分析ができるようになること。

■授業計画・方法

前期

1. ガイダンス
2. 工工四の諸問題
3. 歌三線の音組織
4. 歌三線の旋律形式
5. 《かぎやで風節》の分析
6. 御前風様式の音楽構造
7. 昔節の音楽構造
8. 早間・本間・長間について
9. 本間の楽曲を理解する①
10. 本間の楽曲を理解する②
11. 長間の楽曲を理解する①
12. 長間の楽曲を理解する②
13. 早間の楽曲を理解する
14. アゲとサゲの技法について
15. まとめ（中間）

後期

16. 舞踊作品の音楽
17. 組踊の音楽
18. 八重山の三線音楽
19. 琉球古典音楽研究へのアプローチ 総論
20. 琉球古典音楽研究へのアプローチ 声楽譜とその研究①
21. 琉球古典音楽研究へのアプローチ 声楽譜とその研究②
22. 琉球古典音楽研究へのアプローチ 発声法
23. 琉球古典音楽研究へのアプローチ 伝承論
24. 琉球古典音楽の分析① 楽譜分析
25. 琉球古典音楽の分析② 楽譜分析
26. 分析結果についてまとめ
27. 琉球古典音楽の分析③ 音響分析
28. 琉球古典音楽の分析④ 音響分析
29. 分析結果についてまとめ
30. まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・楽譜を読み解くために自らの手で様々な形に変換させる。そのため工工四のみならず、五線譜でも適切な表記ができるようにしておくこと。
- ・後期では、授業内で分析を行うが自習課題の確実な実施が肝要である。

■成績評価の方法・基準

□方法 自習課題の確実な実施：20%

前期の簡易レポート：30%

後期終の分析結果のまとめ：50%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化科学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 金城厚『沖繩音楽の構造-歌詞のリズムと楽式の理論』第一書房

大湾清之『琉球古典音楽の表層』アドバイザー

□テキスト 教員の指示による

□参考文献 教員の指示による